

令和5年度 社会《第3学年》年間指導計画

担当 (松尾 宏樹)

社会 教科の目標

社会的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成すること

社会 第3学年の目標

歴史 (1) 近現代の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べてまとめる技能を身に付けるようにすること
(2) 近現代の歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代とのつながりに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養うこと

(3) 近現代の歴史的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うこと。

公民 (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活および国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにすること

(2) 社会的事象の意義や意味、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養うこと

(3) 現代の社会的事象について、国家及び社会の担い手として、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に関わろうとする態度を養うこと

※【知】は「知識・技能」、【思】は「思考・判断・表現」、【態】は「主体的に学習に取り組む態度」

月	単元名	学習内容	評価規準	評価資料
4	【歴史的分野】 第4章 近代（前半） 国家の歩みと国際社会	○帝国主義と日本 ○アジアの強国と光と影	【知】 ○日清・日露戦争での勝利や不平等条約の改正などを基に、日本の国際的な地位が向上したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ○日本の産業革命と国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、日本で近代産業が発達し、近代文化が形成されたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。	【知】 A・B
			【思】 ○日清・日露戦争が起きた理由を、世界の帝国主義の動きや日本の近代化との関わりから考察し、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ○工業化の進展が国民生活や文化に与えた影響について、その光と影の二面性を考察し、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	【思】 A・B・C
			【態】 ○国際社会との関わりについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ○近代産業の発達と近代文化の形成について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	【態】 A・B・C・D
5	第5章 近代（後半） 二度の世界大戦と日本	○第一次世界大戦と民族独立の動き ○高まるデモクラシーの意識 ○戦争に向かう世論 ○第二次世界大戦の惨禍	【知】 ○第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、日本国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢および日本の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。 ○経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。	【知】 A・B
			【思】 ○戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ○近代後半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	【思】 A・B・C
			【態】 ○近代後半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	【態】 A・B・C・D
6	第6章 現代 現在に続く日本と世界	○敗戦から立ち直る日本 ○世界の多極化と日本の成長 ○これからの日本と世界	【知】 ○冷戦、日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きのなかで新しい日本の建設が進められたことを理解している。 ○高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解している。	【知】 A・B
			【思】 ○諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ○現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ○これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識を持って多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	【思】 A・B・C
			【態】 ○現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	【態】 A・B・C・D

8	【公民的分野】第1部 現代社会 4時間	○現代社会の特色 ○現代社会をとらえる枠組み	【知】	○現代社会の特色として情報化、グローバル化、少子高齢化などがみられることについて理解している。 ○現代社会における文化の意義や影響について理解している。	【知】 A・B
			【思】	○位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現している。 ○位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。	【思】 A・B・C
			【態】	○私たちが生きる現代社会と文化の特色について、現代社会に見られる課題の可決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	【態】 A・B・C・D
9	第2部 政治 18時間	○民主主義と日本国憲法 ○基本的人権の尊重 ○法の支配を支えるしくみ ○民主政治と私たち ○国の政治のしくみ ○地方自治と私たち	【知】	○個人の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。 ○民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。 ○日本国憲法が基本的人権の尊重、国民民主権および平和主義を基本的原則としていることについて理解している。 ○日本国および日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。 ○国会を中心とする日本の民主政治のしくみのあらましや政党の役割を理解している。 ○議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。 ○国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 ○地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治のしくみ、住民の権利や義務について理解している。	【知】 A・B
			【思】	○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、日本の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。 ○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など、国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。	【思】 A・B・C・D
			【態】	○個人の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 ○民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	【態】 A・B・C・D・E
10	第3部 経済 18時間	○私たちの生活と経済 ○消費者と経済 ○企業と経済 ○これからの日本経済 ○財政	【知】	○身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。 ○市場経済の基本的な考え方について理解している。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解している。 ○現代の生産や金融などのしくみや働きを理解している。 ○勤労の権利と義務、労働組合の意義および労働基準法の精神について理解している。 ○公共交通サービスの提供と税金に着目して、財政のしくみを理解しているとともに、社会資本の整備、公害の防止や環境の保全、社会保障の充実などを通して、私たちの生活や財政の働きにより支えられていることを理解し、諸資料から日本の財政が抱える問題を読み取ることができる。	【知】 A・B
			【思】	○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。 ○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割および雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現している。 ○少子高齢化が進むなか、国民生活の向上に向けて、公正な税制度の在り方やこれからの社会保障制度と財政の在り方などについて、「効率と公正」「分業と交換」「希少性」などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	
			【態】	○市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 ○国民生活と福祉の向上に向けた政府の役割について、財政に着目して積極的に追究し、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	【態】 A・B・C・D
11	第4章 国際 21時間	○紛争のない世界へ ○貧困解消と環境保全 ○課題の探究	【知】	○世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力および国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解している。その際、領土（領海、領空を含む）、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解している。 ○地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。 ○「持続可能な社会」を築いてくために解決すべき課題と、その課題を探究するための方法について理解し、その知識を身に付けていくとともに、「持続可能な社会」を築いていくために解決すべき課題に難するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	【知】 A・B
			【思】	○対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義を基に、日本の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割について多面的・多角的に考察、構成し、表現している。 ○社会的な見方・考え方を働かせて、「持続可能な社会」を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考え方を説明、論述している。	【思】 A・B・C
			【態】	○世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 ○「持続可能な社会」を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	【態】 A・B・C・D